

【第1問】 連結精算表の作成

次に示した【資料】にもとづいて、答案用紙の連結精算表を作成しなさい。なお、当期は×8年4月1日から×9年3月31日までの1年間であり、()内の金額は貸方金額を示している。株主資本等変動計算書は、利益剰余金と非支配株主持分の変動のみを記入するものとし、[]内には適切な語を記入しなさい。

【資料】

1. P社は×8年3月31日に、S社の発行済株式(5,000株)の80%を1,800,000円で取得して支配を獲得し、それ以降S社を連結子会社として連結財務諸表を作成している。なお、P社のS社に対する持分の変動はない。
2. ×8年3月31日(支配獲得時)のS社の貸借対照表上、資本金1,200,000円、資本剰余金240,000円、および利益剰余金540,000円が計上されていた。
3. のれんは発生年度の翌年度から10年にわたり定額法により償却する。
4. S社は当期中に、繰越利益剰余金を財源として60,000円の配当を行っている。
5. 当期よりP社はS社に対して商品を掛けて販売しており、その売上高は1,080,000円であり、売上総利益率は30%である。

6. 当期末にS社が保有する商品のうち、P社から仕入れた商品が312,000円含まれている。
7. P社の売掛金のうち420,000円はS社に対するものである。P社は売上債権期末残高に対して、4%の貸倒引当金を差額補充法により設定している。
8. P社の貸付金は、当期首にS社に対して期間2年、利率年1%、利払日9月末日と3月末日の条件で貸し付けたものである。

【問題演習用PDFデータのご案内】

本書に書き込まずに問題演習を行えるよう、この問題のPDFデータの特設サイトにて無料配布しています。

下記のURLまたは右のQRコードよりアクセスして、ご活用下さい。

<http://www.ns-2.jp/dareren/>

※印刷費用はお客様のご負担となります。



【答案用紙】

連結精算表

(単位：円)

科 目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P 社	S 社	借 方	貸 方	
貸借対照表					連結貸借対照表
諸 資 産	672,000	1,060,800			
売 掛 金	2,160,000	1,440,000			
貸倒引当金	(86,400)	(57,600)			()
商 品	960,000	720,000			
貸 付 金	240,000	—			
S 社 株 式	1,800,000	—			
[]					
資 産 合 計	5,745,600	3,163,200			
諸 負 債	(324,000)	(120,000)			()
買 掛 金	(1,341,600)	(643,200)			()
借 入 金	(—)	(240,000)			()
資 本 金	(2,400,000)	(1,200,000)			()
資本剰余金	(600,000)	(240,000)			()
利益剰余金	(1,080,000)	(720,000)			()
非支配株主持分					()
負債・純資産合計	(5,745,600)	(3,163,200)			()
損益計算書					連結損益計算書
売 上 高	(7,440,000)	(4,320,000)			()
売 上 原 価	5,160,000	3,480,000			
販売費及び一般管理費	1,548,000	516,000			
営業外収益	(482,400)	(242,400)			()
営業外費用	290,400	206,400			
法人税等	324,000	120,000			
当期純利益	(600,000)	(240,000)			()
非支配株主に帰属する当期純利益					
親会社株主に帰属する当期純利益					()
株主資本等変動計算書					連結株主資本等変動計算書
利益剰余金当期首残高	(840,000)	(540,000)			()
剰余金の配当	360,000	60,000			
親会社株主に帰属する当期純利益	(600,000)	(240,000)			()
利益剰余金当期末残高	(1,080,000)	(720,000)			()
非支配株主持分当期首残高					()
非支配株主持分当期変動額					()
非支配株主持分当期末残高					()

(注) () は貸方金額を示す。連結財務諸表欄に該当数値がない場合は「—」と記入する。